

日本留学フェア 2024 実施報告書

作成日：11月6日（水）
作成者：Da. ムンフトヤ

標記の第15回「日本留学フェア 2024」を以下のとおり実施しましたので、報告いたします。

記

1. 開催日時：
- ・10月04日（金）09：00～17：00 -現地教育機関訪問
 - ・10月05日（土）11：00～17：30 -フェア1日目
 - ・10月06日（日）11：30～17：30 -フェア2日目

2. 開催場所： モンゴル・日本人材開発センター
（多目的室、ロビー、2F セミナールーム）

3. 実施体制：

1) 日本留学フェア実施体制

主催： モンゴル・日本人材開発センター

共催： モンゴル国立大学（NUM）

後援・協力：在モンゴル日本国大使館、国際協力機構（JICA）、日本学生支援機構（JASSO）、
モンゴル日本語教師会、帰国留学生のJUGAMO会

2) センター内フェア実施体制

図書交流課を中心にイベントの実施。

また、留学フェア参加者の空港送迎や会場設営のサポート。

JICA 専門家、総務課長がフォロー。

日本語課、ビジネス課、総務課は通訳をサポート。

3) 参加大学・機関（五十音順）

（うち対面参加）

京都先端科学大学、慶應義塾大学、国際大学、中央学院大学、東京国際大学、
名古屋商科大学、新潟県立大学、兵庫県立大学、日本学生支援機構（JASSO）

（うち資料参加）

名古屋大学、山形大学

合計：10校、1機関

4. 日本の大学からの参加者人数： 15名

5. 現地参加対象者と参加者数

➤ 参加対象者： 高校生、大学・大学院生、一般社会人、大学関係者など

➤ 参加者数： アンケート配布ベースで667名（内アンケート回答者数：592名）

（センター来館者数：（2日間の来場者延べ数）：1008名

アンケートベース679名→05日：309名、06日：370名）

6. 全体プログラム

・10月04日（金）

現地での教育機関訪問対象 9 ヶ所→（新モンゴル小中高一貫学校、新モンゴル日馬富士、The British school of Ulaanbaatar、Sant 学校、Hobby 学校、モンゴルテムーレル学校（Mongol Aspiration International School）、モンゴル国立大学、モンゴル人文大学、モンゴル科学技術大学 /MUST/）担当者との面談、訪問先の視察など。

・10月05日（土）

開会式、「留学フェア」→国費留学生試験制度について（在モンゴル日本国大使館）、日本留学概要説明（JASSO）、日本語能力試験（JLPT）と日本留学試験（EJU）について講演（モンゴル日本語教師会）、各大学の紹介プレゼンテーション

・10月06日（日）

「留学フェア」→国費留学生試験制度について（在モンゴル日本国大使館）、日本学生支援機構（JASSO）、日本語能力試験（JLPT）と日本留学試験（EJU）について講演（モンゴル日本語教師会）、大学の紹介プレゼンテーション、TALKio/帰国留学生トークイベント（JUGAMO）、大学の紹介プレゼンテーション、反省会、懇親会

7. 広報実績

- 8月22日より留学フェアに関する情報をセンターFB、HP で広報をした。
- 9月16日よりモンゴル国立大学・図書館の前にバナー（3m*5m）を掲示。
- 9月20日から06日までセンターFBを通じて有料 BOOST POST サービスでフェア案内を発信した。
- 10月5日、6日に留学フェアのライブ配信 リーチ数：8551
- 9月23日と10月5日にセンター各種 ML（日本語コース受講生、PC コース受講生、無料相談窓口利用者、日本語教師会、モンゴル国立大学、JUGAMO）などを2回、約10,000名のメーリングリストにフェア情報を発信した。

8. アンケート集計

留学フェア10月05日（土）回答者数278名（回収率約90%）

留学フェア10月06日（日）回答者数314名（回収率約85%）

9. 現地での教育機関訪問の実施内容

1) 私立高校と大学への訪問及び意見交換

訪問先の視察、学長、校長との面談、教師や高専学生との意見交換、協定校との連携や学生交換についての意見交換、現地での日本語学習者の現状について訪問先による説明。訪問先へモンゴル・日本人材開発センターJICA 業務調整員、通訳として MOJC スタッフが同行した。一部の教育機関では、当日に学生や説明が可能なクラスに対して説明会の場を提供していただき、その場で説明会を実施した大学もあった。

2) 訪問先および参加大学は下表の通り。

No	訪問先	参加大学名	参加人数	センター 同行者人数
1	新モンゴル小中高一貫学校	慶応義塾大学-1 名 新潟県立大学-1 名 JASSO-1 名	3 名	1 名
2	新モンゴル日馬富士学校	中央学院大学-2 名 名古屋商科大学-1 名 JASSO-1 名	3 名	1 名
3	The British School of Ulaanbaatar	名古屋商科大学-1 名	1 名	1 名
4	Sant 学校	慶應義塾大学-1 名	1 名	1 名
5	Hobby 学校	慶応義塾大学-2 名 京都先端科学大学-1 名	3 名	1 名
6	モンゴルテムーレル学校 (Mongol Aspiration International School)	京都先端科学大学-1 名	1 名	1 名
7	モンゴル国立大学	新潟県立大学-1 名	1 名	1 名
8	モンゴル科学技術大学 /MUST/	国際大学-2 名	2 名	1 名
9	モンゴル人文大学	中央学院大学-2 名	2 名	1 名

10. 日本留学説明会・留学フェア実施

① 留学フェア全体に関して：

今回は、在モンゴル日本国大使館、JASSO とによる説明をセンター1 階のロビーで行った。「日本留学フェア 2024」には日本留学の概要と JASSO の奨学金制度のほか、モンゴル日本語教師会による講演「日本語能力試験（JLPT）と日本留学試験（EJU）について」や帰国留学体験談・帰国留学生トークイベントも含まれた。在モンゴル日本国大使館、JASSO、モンゴル日本語教師会や参加大学のブースを多目的室に設置した。開会식을 11 時 00 分から開始、そのあと 11 時 30 分から 17 時まで多目的室にて在モンゴル日本国大使館、JASSO、モンゴル日本語教師会や各大学による個別相談を行った。

② 各大学の紹介プレゼンテーションに関して：

フェア 1 日目と 2 日目に各 1 回のみ大学紹介プレゼンテーションを実施した。プレゼンテーションの順番は、10 月 4 日のオレーションでの抽選結果に従って行った。初日は午後 13 時から各大学のプレゼンテーションを開始し、最終日には 8 校のプレゼンテーションを 2 回に分けて行った。会場については、フェア 2 日ともロビーとした。プレゼンテーションは大学担当者が POWERPOINT を用いて原則日本語、また英語で行い、その際に逐次モンゴル語通訳を入れ、20 分間以内とした。

③ 各大学の個別ブースセッションに関して：

フェアは定刻 11 時 30 分から多目的室で開始された。全般的には、個別相談の内容は例年同様に奨学金制度とその資格要件、学費、取得可能な学位や資格、日本語別科の有無や大学院、などについての質問が多かった。また英語のプログラムがあるか、英語での入学は可能かという質問が例年よりさらに増した。

11. 反省会

留学フェア2日目の終了直後、センター2階の204・205号室において参加大学をはじめ、在モンゴル日本国大使館の代表者の出席のもと、反省会を実施した。主催者側から滝口専門家、総務課長、留学フェア担当スタッフが参加した。最初に滝口専門家より挨拶を行い、参加各大学に対して、センター側から、フェアについての全体の評価、来年に向けてのフェア運営の改善点、各大学在学中のモンゴル人学生の人数や出願時期について質問した。各大学の代表から留学フェアについてコメントをいただいた。

各大学在籍モンゴル人学生の人数について：

慶應義塾大学-6名、京都先端科学大学-20名、国際大学-15名、中央学院大学-4名、東京国際大学-50名、名古屋商科大学-1名、新潟県立大学-2名、兵庫県立大学-16名

▶ 参加大学から主なコメントについて：

- ・IT・テクノロジー系、ビジネスに関心のある学生が多く、また、当初の想定以上に英語ができる学生が多い印象を受けた。奨学金はもちろん一番重要なファクターになるが、モンゴル国内での高校の学費などをみると、必ずしも金銭的に日本留学の余裕がない層ばかりでもなく、むしろ欧米やオーストラリア進学を視野に入れている家庭も多いことも驚きだった。
- ・今回で4回目の対面出展となりましたが、フェア中でのGBCの知名度が年々上がっている実感があります。予め、フェアのポータルサイトなどでGBCのことを調べてからピンポイントでGBCのブースを訪ねるといった学生が多く見受けられ、説明が効率よく学生に届いたと思います。あと毎年感じますが、高3だけでなく中学生なども真剣に進路を考えているのは印象的でした。
- ・昨年にも感じた印象ですが、語学力が高い学生が多かった。昨年と比較して理系を希望する学生が多かった気がします。
- ・通訳、また運営側の職員の皆様のおかげ、スムーズにフェアに参加できました。また、モンゴルの学生さんは、ご自身のキャリアについてとても熱心に考えている方が多い印象を受けました。
- ・本学は文系の大学だが、理系（コンピュータグラフィックや工学）を希望する学生の参加が多かったように感じた。また、大学の授業について英語で受講できるか確認が多かった。
- ・英語学習者、学士希望者が増えている印象。良く聞かれた質問は、奨学金、学費、日本語の必要性、英語スコアの目安、EJUやJLPT試験の有無
- ・日本への留学を熱心に考えている多くの学生に本学について説明することが出来、満足しています。特に、通訳の方には心より感謝しています。モンゴルの学生については、学部生のみならず、高校生、中学生も多く見受けられ、熱意を感じました。
- ・現地高校訪問についてはモンゴル学生の日本語レベル等が確認できて非常に良かったと思う。
- ・参加の回数を重ねるごとに確実にフェアの参加者からの受験、入学が実績として表れています。このような機会をいただき感謝します。引き続き参加させていただきたいと思います。

➤ **参加大学からの提案について：**

- ・春のフェアについて（実施有無、日程、形式等）方向性が固まりましたらお早めにご案内いただけますと幸いです。
 - ・同じ日にちに開催された欧米留学フェアと被らないように調整をいただけると大変助かります。
 - ・反省会の際にも申し上げましたが、プレゼンテーション毎に会場内アナウンスをしていただくと来場者・フェア出展者ともに都合が良いかと思いました。また、プレゼンテーションの間を5分程あけていただけると時間や機材トラブル等のプレッシャー無く説明ができますのでご検討頂けますと幸いです。
 - ・特にありません。但し、今年度は8大学2機関のブースが出展されていましたが、同室を来年度以降も使用する場合、出展機関がこれ以上増加すると、若干窮屈に感じるのではないかと思います。
 - ・アレンジ・当日の運営含めて全体的に対応が素晴らしく、細やかな心配り、通訳さんの対応、親切なスタッフさんたち、諸々に大変感謝しております。反省会でも共有しましたが、高校訪問の内容が事前に共有されるとありがたいです。（会談のみ or 学生へのプレゼン有無、など）そして、できれば担当者や学校長との会談だけでなく、学生へのプレゼンなどの機会をもらえると嬉しいです。また、タイミングが許せば高校訪問が2日間でも参加できるかもしれないので、そのオプションもあるとありがたいです。
 - ・モンゴルにおいて、JASSO の知名度が低く、今回も大学と間違われるケースが多数ありました。当方でもブースでの表示を検討する必要はあるが、貴センターで準備いただいているバナーも略称ではないものを準備していただけると有難いと感じた。
- そして、総合案内である「日本留学情報サイト (STUDY IN JAPAN Website) のトップページ (モンゴル語 ver.) にアクセスできるような QR コードを会場内に表示していただくと有難いと感じた。そうすれば、訪問者がその場で色々と調べられるので、大学（院）や奨学金の情報を瞬時に得られるので、役に立つのではないかと感じました。

12. 懇親会

今年は例年通りフェア2日目終了後に懇親会をセンターの多目的室にて実施した。日本の大学参加者は現地の教育機関関係者や教師と意見交換を行った。今回はモンゴル科学技術大学/MUST/、モンゴル人文大学および新モンゴル小中高一貫学校、新モンゴル日馬富士学校、Sant 学校、British School of Ulaanbaatar の担当者が懇親会に来てくださった。

13. 全体として

良かった点：

- ・ 例年同様に JICA モンゴル事務所を通して、参加大学からの案内資料等を通関トラブルなしに無事に受領できた。
- ・ モンゴル日本語教師会による「日本語能力試験 (JLPT) と日本留学試験 (EJU)」について講演が非常に人気であり、好評だった。今回の講演は、日本の大学への入学を希望する学生にとって、試験内容や受験方法を理解し、スムーズに準備を進めるための重要な機会となった。
- ・ 2 日目には「JUGAMO 会」と連携し、帰国留学生をゲストに招いてトークイベントを実施した。これにより、来場者は日本留学や日本の大学生活について具体的な情報を直接聞くことができ、非常に好評で有意義な時間となった。
- ・ 通訳の方々が非常に優秀であり、実質的には大学側のスタッフとして制度説明を行うことができるという高い評価を参加大学からいただいた。
- ・ ご参加いただいた各大学の情報をフェア特設サイトおよび FB ページに掲載したことで、日本への留学を希望する方々への効果的な宣伝ができた。また、真剣に進路を考えている方々にとって、必要な下準備を整える手助けとなった。
- ・ また、英語プログラムをお勧めする各大学の情報を英語版で FB ページに掲載したことで、日本語が話せなくても英語で日本へ留学したい人々へ宣伝できた。

- フェアに對面でご参加いただいた各大学の発表を FB ページでライブ配信したことで、日本への留学を希望しているもののフェアに來場できなかった方々（特に地方在住の方々）にも情報をオンラインで提供することができた。この取り組みにより、より多くの人々に留学情報を広めることができ、宣伝効果が高まった。
- 昨年度の参加大学からの提案を受け、今年度から初めて参加大学に無料で 3 つのセミナールームをフェア期間中に設けるサービスを導入した。このスペースは、学生や教育関係者との密接なコミュニケーションや業務に集中できる場として、各大学の面談や戦略会議、個別相談、さらには関係者との交流の場として今後役立つことを期待している。
- 今年度より、來場者アンケートに追加質問を入れ、來場者の関心をより明確にし、大学が適切に情報提供できるよう工夫した。この変更により、來場者が必要な情報をスムーズに得ることができ、大学側も参加者に対して効率的にアプローチできるようになることが期待される。
- プレゼンテーションの順番をより公平に決定するため、大学からの提案を受け、今年度からフェアの 2 日間ともくじ引きで順番を決めることにした。
- 大学の配布資料が不足した際の対策として、各大学の QR コードをテーブルに配置した。これにより、訪問者はその場で様々な情報を調べられ、各大学や出願に関する情報を簡単に得ることができるため、大変役立つと考える。

2) 今後の課題

- 学校訪問の内容や留意事項をより明確にし、各大学に事前にお知らせできるよう努める。
- 当センターの留学フェアについての認知度を高め、より多くの参加者を集めるため、広報活動をさらに工夫していく。
- 終了後の大学からのアンケートや來場者アンケートの意見を次回フェアに可能な範囲で活かしていきたい。

以上